

# バブル後の日経平均連動型投信に長期積立投資で資産が2.4倍に!? 多様な資産・投資期間・終了時期で積立投資の有効性を検証!

三菱UFJ国際投信株式会社 商品マーケティング企画部 松尾 健治

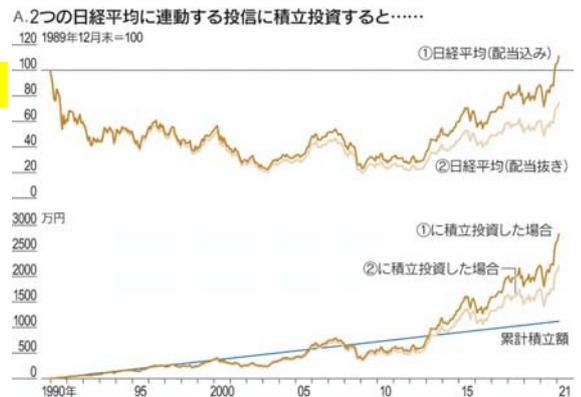
※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

窪田 真美

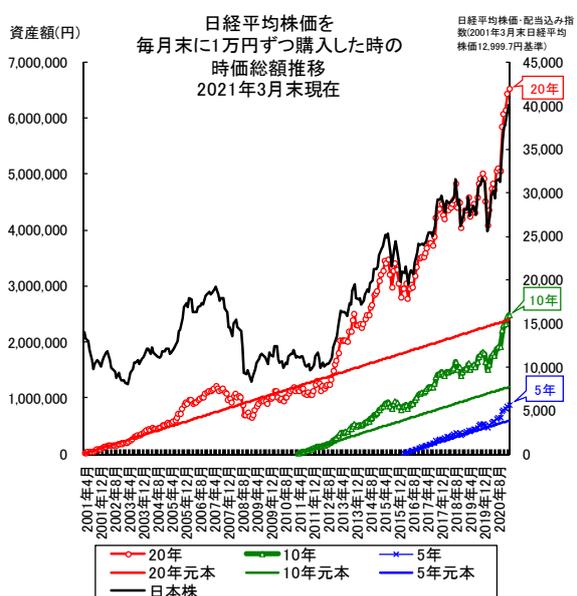
## 日経平均連動型投信に月3万円の積立投資を30年間続けると2020年末に2.4倍!?

2021年4月7日付日本経済新聞電子版に「バブル後日経平均 長期低迷でも『資産2.4倍』の謎」と言う見出しの記事が出ていた(URLは後述[参考ホームページ]①参照)。以下に一部を引用する。

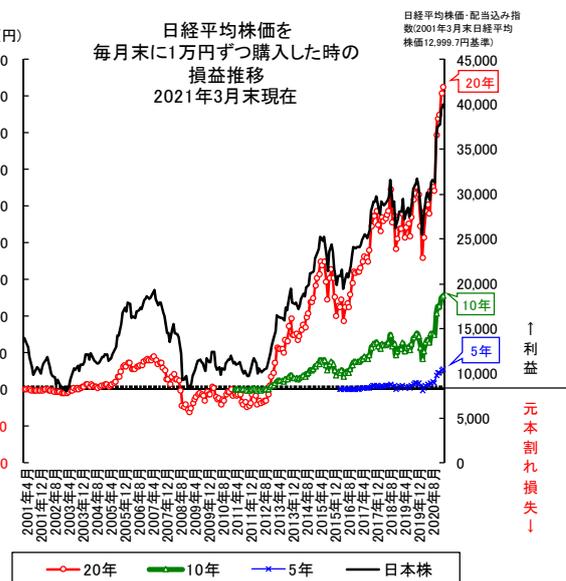
「バブル崩壊後の90年1月から日経平均に連動する投信(実質的に配当込み指数に連動)があったとして、毎月3万円を積立投資していたら、20年末までの累計積立額は1116万円。…(略)…。20年末の資産は2668万円。累計積立額の2.4倍だ。バブル後の積立利回りを計算すると年平均約5%になる。毎月定額を投資した結果、株価が低いときに多くの量を買っていたので、その後の回復で資産が大きく増えた。…(略)…。バブル後の積立利回りを計算すると年平均約5%になる。毎月定額を投資した結果、株価が低いときに多くの量を買っていたので、その後の回復で資産が大きく増えた。」(URLは後述[参考ホームページ]①参照)。



上記記事は、日経平均連動型投信の積立投資を2020年末まで30年間行った場合、資産額は2668万円と、30年間の累計積立額1116万円に対して、2.4倍になったと言う。「毎月定額を投資した結果、株価が低いときに多くの量を買っていたので、その後の回復で資産が大きく増えた。」としている。異なる投資期間で、より最新を見るべく2021年3月末まで5年、10年、20年間に、日経平均株価(配当込み)を毎月1万円ずつ購入した場合を見たのが下記グラフである(左が時価、右が損益)。いずれの投資期間でも利益となっていた。



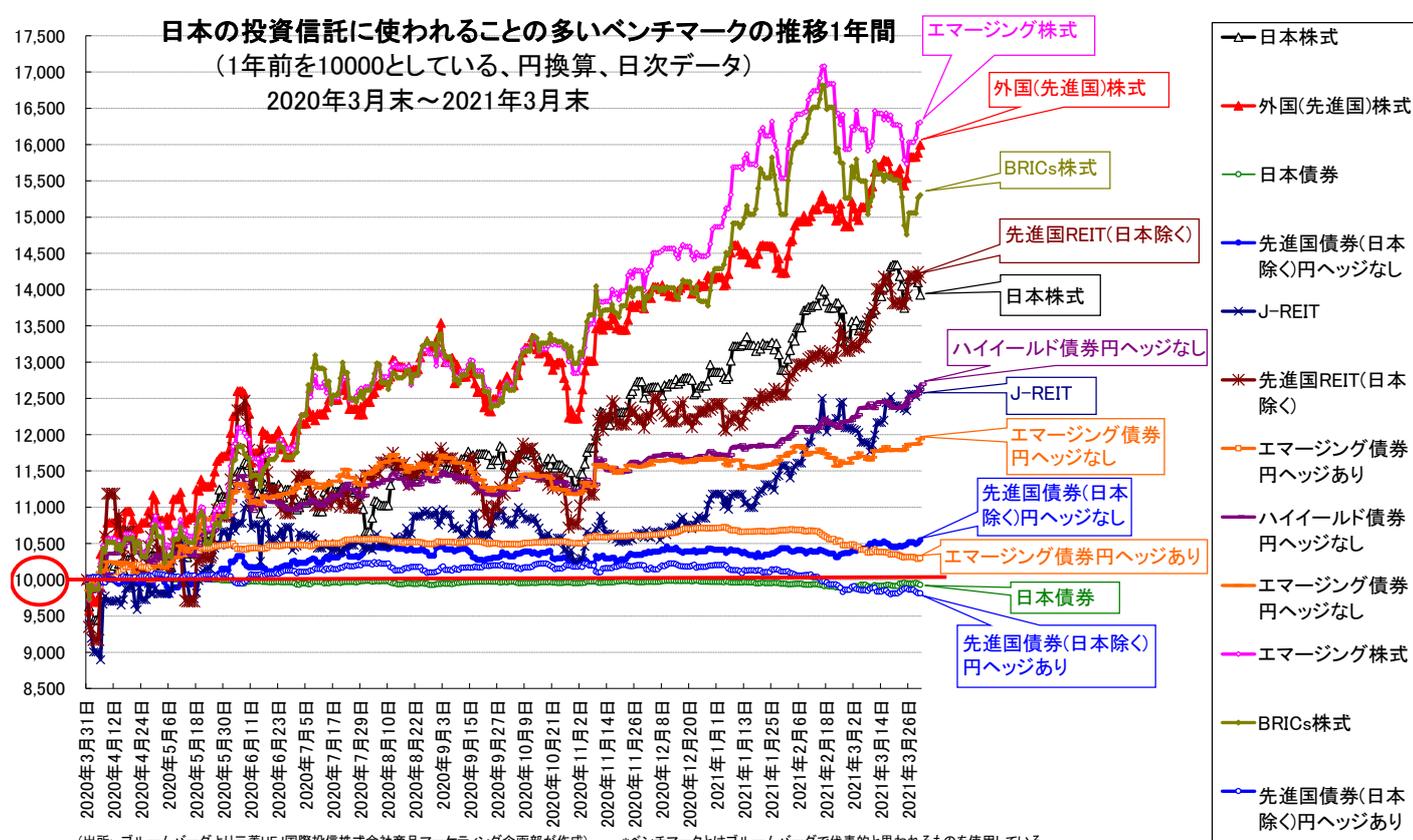
(出所:ブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)



(出所:ブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

日本株だけでなく、先進国株やエマージング株、REIT など、それ以外の資産に投資した場合も見てみたい。つみたてNISAの投資家はもちろん、一般NISA等の投資家も積立投資ができる。一般NISA等で積立投資を行う場合、商品が限定されておらず、(つみたてNISAに比べ)自由度の高い投資が可能である為、こうした検証はより参考になると思われる。

まず、昨年2020年のコロナショック時に急落した局面も踏まえ、直近まで日本の投信がどうなっているかを見る。日本の投信に使われる事の多いベンチマークについて、2021年3月末までの1年間パフォーマンス推移を見たのが次頁のグラフである。好い順に、エマージング株式、先進国株式、BRICs株式、先進国REIT、日本株式、ハイイールド債券などとなっている(\*グラフは1年前を10000としている、円換算、日次データ)。

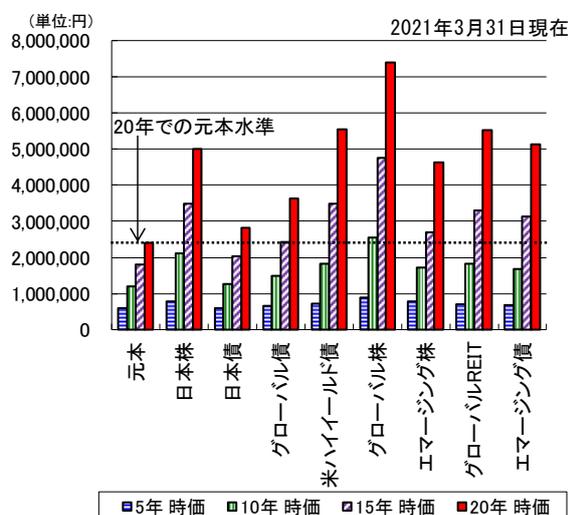


では実際に、投信で積立を行った場合の結果はどうなるだろうか? NISAで使われる事が多い投信ベンチマークについて、投資期間・積立開始時期・積立終了(出口)時期を変え、多種多様な検証をする(2013年2月8日付日本版ISAの道 その2 から継続中~URLは後述[参考ホームページ]②参照)。

毎月1万円ずつ積立投資をしていたら、今いくらになっているのか、まず2021年3月末までの投資期間5年、10年、15年、20年の元本とリターン(損益)が次頁のグラフである。グラフの左が時価、右が損益である(\*手数料等は考慮せず)。

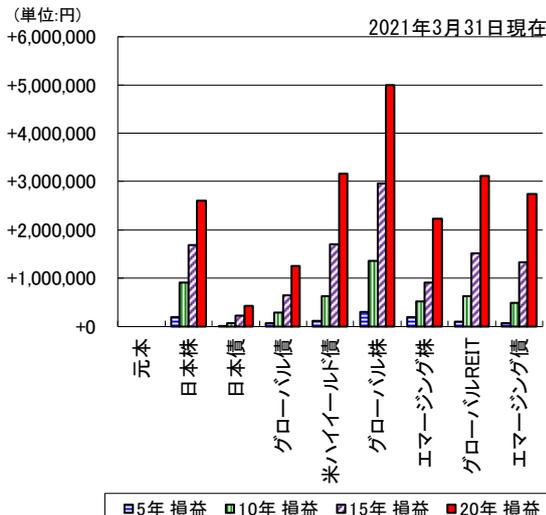
投資期間 5年・10年・15年・20年

2021年3月31日 まで毎月末に10000円ずつ購入した時の現在の **時価** \*左から投資期間 5年・10年・15年・20年。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)  
\*ベンチマークとはブルームバーグで代表的と思われるものを、当コラムで2013年2月8日付日本版ISAの道その2から継続して使用している(以下同じ)。

2021年3月31日 まで毎月末に10000円ずつ購入した時の現在の **損益** \*左から投資期間 5年・10年・15年・20年。



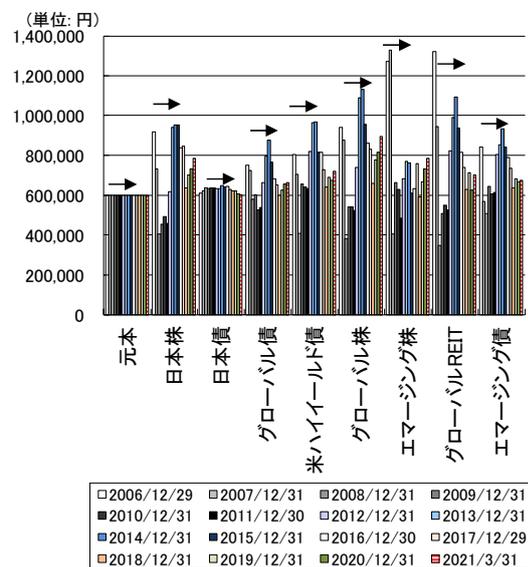
(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

**5年、10年、15年、20年はいずれの資産もプラスのリターンとなり、グローバル株(日本を除く先進国)のリターンが最も好かった。** 昨年2020年のコロナショック時に急落した局面もあったが、「積み立て投資は運用不振時の安値で購入し続けた後、基準価格が上昇したときにリターンが大きく改善するのが特徴。」(2021年4月8日付日本経済新聞電子版～URLは後述[参考ホームページ]①参照)と言う通りの結果となった。5年、10年、15年では日本株の利益はエマージング株やグローバル REIT より大きかったが、20年ではグローバル REIT が日本株を上回った。

積立投資は一括投資の様な「投資時期と終了時期の2時点での市場次第」と言うリスクは軽減されるが、「終了時期の市場次第」と言うリスクがある(\*積立期間中に市場価額が上がり平均投資単価が高くなる場合もある)。そこで積立の終了時を2006年～2020年の各年末、2021年3月末として検証する。まずは投資期間5年である。

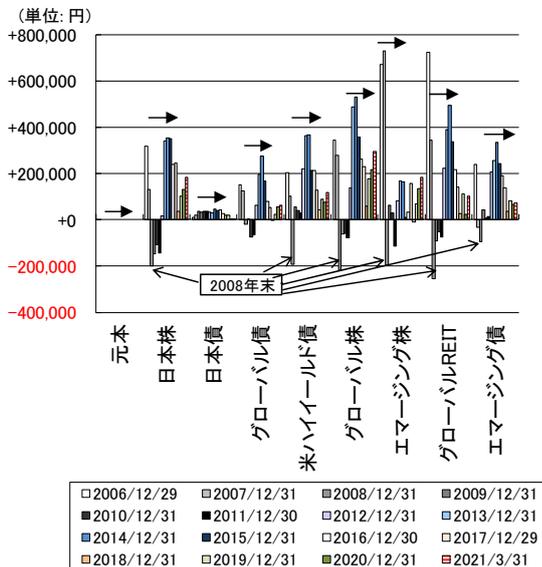
投資期間 5年

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の **時価**  
\*左から2006年～2020年の各年末、2021年は3月末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の **損益**  
\*左から2006年～2020年の各年末、2021年は3月末。

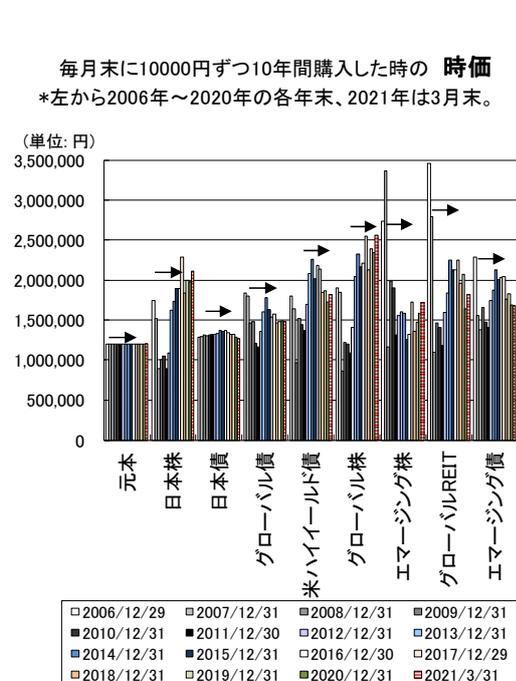


(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

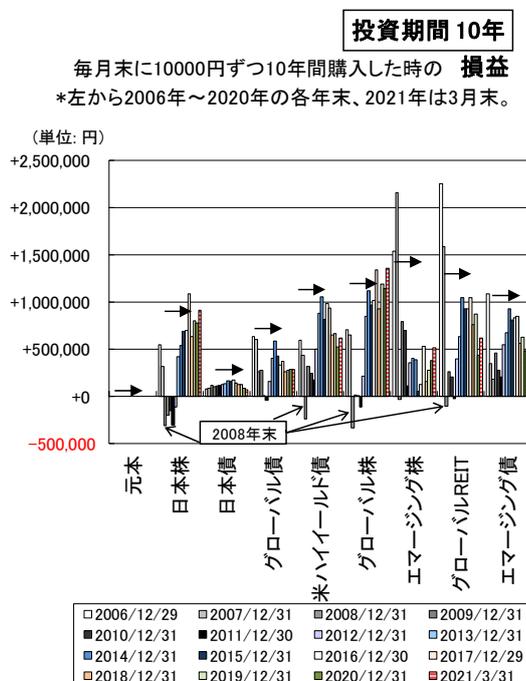
グローバル REIT や、グローバル株・日本株は、2021年3月末までの積立5年では昨年2020年末より利益を増やしているが、リーマン・ショック(2008年9月)後2008年末から2011年末まで損失が続いている。ただ2012年末に回復、2014年末にかけ利益が急拡大している。

5年の積立では期間によっては損失となる事がある。より長期ではどうか。

**投資期間10年は下記グラフの通り、投資期間5年に比べ総じて黒字化している。** グローバル REITとグローバル株は、投資期間5年では2008年末から2011年末まで損失だったが、10年では、2008年末と2011年末だけで損失である。エマージング株は5年で2008年末・2011年末・2018年末いずれも損失だったが、10年では2008年末のみ損失となっている。総じて損失となる年が減り損失額も小さくなっている。ただ、日本株は2008年末から2012年末まで損失であり、投資期間5年より損失年が増えている。



(出所: プルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

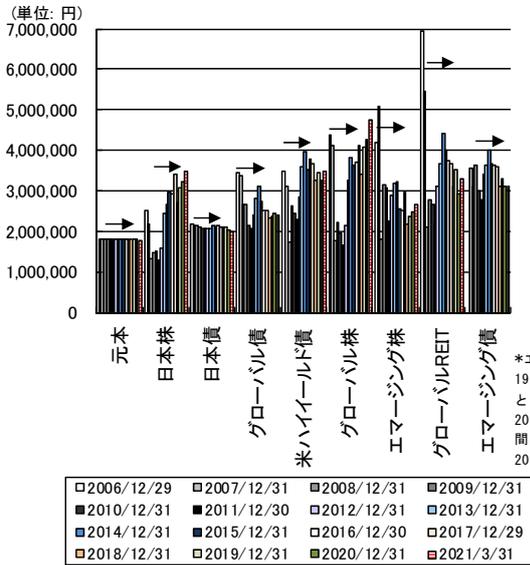


(出所: プルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

**そして投資期間15年と20年は黒字化がより鮮明となる。次頁グラフがそれで、大半がいずれの時点でも利益、もしくは、見えなくらいの損失にとどまる。2012年末までマイナスだった日本株は2013年に黒字化する。リーマン・ショックの様な相場暴落時でも、長期になればなるほど積立投資では良好な結果になっている。**

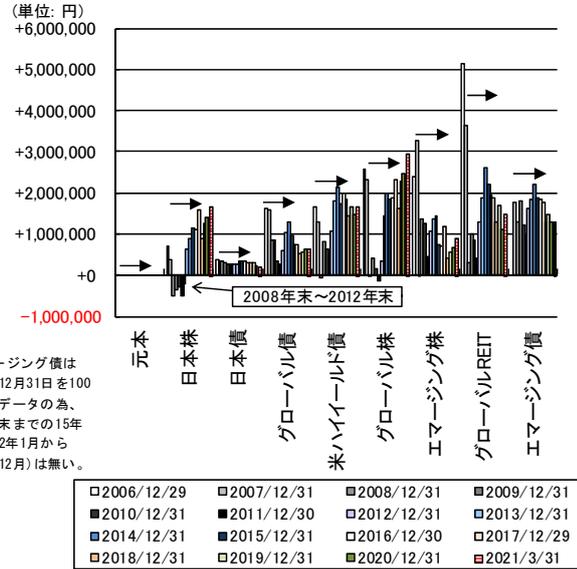
**投資期間 15年**

毎月末に10000円ずつ15年間購入した時の **時価**  
\*左から2006年～2020年の各年末、2021年は3月末。



（出所：ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成）

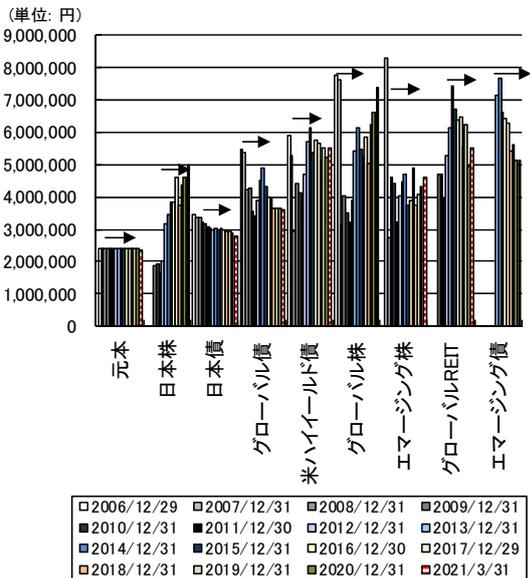
毎月末に10000円ずつ15年間購入した時の **損益**  
\*左から2006年～2020年の各年末、2021年は3月末。



（出所：ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成）

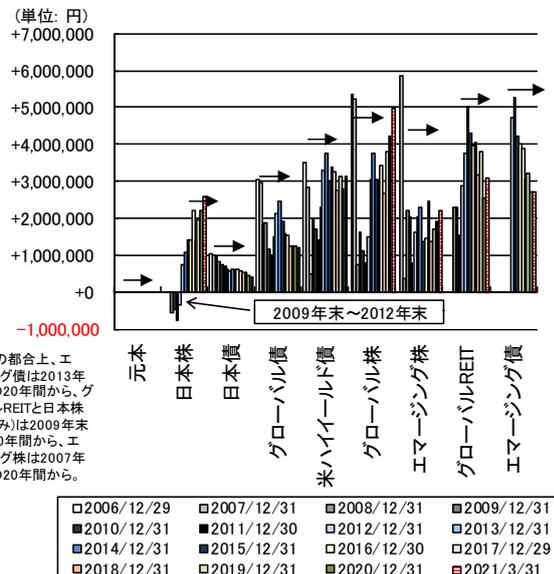
**投資期間 20年**

毎月末に10000円ずつ20年間購入した時の **時価**  
\*左から2006年～2020年の各年末、2021年は3月末。



（出所：ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成）

毎月末に10000円ずつ20年間購入した時の **損益**  
\*左から2006年～2020年の各年末、2021年は3月末。



（出所：ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成）

以上のリターン/リスクの大小や安定さを良く見た上で投資家が自身のリスク選好度や好み等に応じ投資する事が期待される。市場の値動きに動揺する事なく、ここに掲載したリターンやリスクを参考に積立を検討、つみたてNISA、iDeCo(イデコ)/個人型確定拠出年金、そして一般NISA、ジュニアNISA、職場つみたてNISAといった節税出来る金融商品を使い、多様な選択肢から長期・分散の積立投資をして資産形成の一助にしてほしい。

以上

[参考ホームページ]

①2021年4月7日付日本経済新聞電子版「バブル後日経平均 長期低迷でも「資産 2.4 倍」の謎」…

「 <https://www.nikkei.com/article/DGXZQGH23CFM0T20C21A3000000/> 」、

2021年4月8日付日本経済新聞電子版「つみたて NISA、投資効率がいいのは？」…

「 <https://r.nikkei.com/article/DGXZQOUB055V20V00C21A4000000?type=my#AAAUAaAAMA> 」。

②2013年2月8日付日本版ISAの道 その2「ISA口座と特定口座(一般口座)をセットにした積立投資を考える。エマージング債やグローバルREIT、ハイイールド債、エマージング株などが注目(DC/確定拠出年金にも活用可能)。」…「 <https://www.am.mufg.jp/text/130208.pdf> 」。

## 三菱UFJ国際投信【投信調査コラム】日本版ISAの道 バックナンバー…

「 <https://www.am.mufg.jp/market/report/investigate.html> 」、

「 <https://www.am.mufg.jp/smp/market/report/investigate.html> 」

～Google等で「投信調査コラム」もしくは「日本版ISAの道」と検索～

### 本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額が変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

#### 本資料中で使用している指数について

- ・TOPIX(東証株価指数)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・「日経平均株価」に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。
- ・ブルームバーグ(BLOOMBERG)は、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピー(Bloomberg Finance L.P.)の商標およびサービスマークです。バークレイズ(BARCLAYS)は、ライセンスに基づき使用されているバークレイズ・バンク・ビーエルシー(Barclays Bank Plc)の商標およびサービスマークです。ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーおよびその関係会社(以下「ブルームバーグ」と総称します。)またはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・バークレイズ・インデックス(BLOOMBERG BARCLAYS INDICES)に対する一切の独占的権利を有しています。